

## 「継続は力なり！ この地域で大切にしていきたいこと」

待鳳学区 民生委員 石原 喜美子さん

聞き手 荻谷 利幸

今回は、地元が待鳳学区で民生委員歴10年の石原喜美子さんにお話を伺いました。

民生委員になるに当たっては、推薦委員さんから「適任者」との太鼓判を押され、「はい」と一発返事で了解されたのがきっかけで、周りの方々の力も御借りしながら現在活躍されています。初めての仕事は、生活保護の方への保護通知を手渡しで持っていくことでしたが、中には怖い方もおられビビられた時期もあったそうですが、そんな時はご主人も手伝って下さり、助けてもらっていたそうです。

現在の主な活動は、待鳳小学校の児童の登校に合わせての朝の見守りを週3～4回実施。毎日、子どもたちに「おはよう」と声をかけ見守っておられて、休むと「昨日、おばちゃん、どうしてたん」と子どもたちからの声かけがあったりで、逆に自分のことを見ていてくれたんだなあ～と感動する場面もあるそうです。

また、すこやか学級と配食弁当を月1回、ボランティア(あけぼの)として出向いて、高齢者の方々とのおふれあいを大切にされ、高齢者の方々からの知恵を頂けることも楽しみの一つになっているとの事です。聞いていると、そんな何気ない出来ごと一つ一つが、地域の支えや絆を生んでいるんだと思いました。

今後の目標を尋ねますと、これからも民生委員の定年と言われる時期(75歳)まで頑張るつもりですとの事でした。今迄大きな病気もせず、自身の健康維持にと健康教室に通ってられます。

これからも活動の一つ一つを大切に、毎日「おはよう」と声をかけ合う中で、この地域の一人一人の距離が身近になり、地域の輪づくりができていけば、自然と「この地域に住んでよかった」と、皆さんが感じられる町づくりに貢献していく事になるのではとの事でした。

今回、お話を伺う中で、人と人との出逢い・つながりを大切にされている石原さんたち民生委員の方々の日々の活動を知る事ができ、勇気づけられました。今後ともよろしく願いいたします。

### 待鳳学区避難所運営訓練



避難所運営協議会立ち上げ

お熱があるので集団から離れて生活



班ごとの打ち合わせ

避難所用ベッドです。

## 民生児童委員は「応援団」

紫竹学区民生児童委員 大西 喜久栄さん

聞き手 藤田 光里

【民生委員を引き受けたのは】 今から7年前、「引っ越すから、代わりをお願いします」と同町内前任委員さんから引き継いだのがきっかけです。いずれ、自分も御世話になるのだから、元気なうちにになにか地域のお役に立てればという思いを抱いていたものの、私にできるかな?と不安がたくさんありました。迷っている私の背中を押してくれたのは、主人でした。

【日常の活動と課題】 私が日頃心がけているのは、気配り、目配り、そして声かけ(応援)です。46年間住み慣れたこの地域、多くの顔見知りの人達。「元気かな?変わりはないかな?」と、いつも気になり、すれ違うたびに自然に声をかけてしまいます。話をしてもらえると、とても嬉しいし、幸福な気持ちになります。

民生委員としての役割(立場?)以前に、人としての繋がりがや温かな交流を大切にしたい。普段からの繋がりがあからこそ、本当に困ったときに相談することができて、たすけあうことのできる関係になれると信じています。

日々の活動のなかで、できるだけ地域に住む多くの方に関わりたいと願っています。ただ、どうしても関わりや受け入れが難しい方や、町内会に入っていない方達と接する機会がないなど、プライバシーの問題もあり、どこまで声をかけてよいものか、支援させてもらったらいいのか... 思い悩むことが多く、また、終わりのない仕事です。肉体的にも精神的にも、きつい時があります。

そんなとき、仲間が存在があることで、元気づけられ前向きに明るく活動することができています。私に関わってくださるすべて方に感謝するばかり。これからも地域のお役に立てるよう、自分にできる限り、一人でも多くの人を精一杯「応援」し続けていきたいです。

大西さんの笑顔からは、力強さを感じられるなかにも、優しさにあふれた温かな気持ちが伝わりました。自分のことや家族のこと、誰かに気にかけてもらうのは嬉しいことですよね。せっかく同じ地域に住むのだから、黙ってすれ違うより一言でも挨拶しあえると、気持ちが温かくなりますよね。人と人の関係において、忘れてはならない大切なことを思い出させてもらえたように思います。